

2010・平成22年

復習用現代語訳

現代において学芸を修めようとする人々は、ともすれば杜甫の詩を難解と考え、まったく読もうとしない。そして彼らが朗詠するのは宋・明または晩唐の詩だけだ。しかし彼らはまったくわかっていない。これらの詩の影響を強く受けてしまうと、後で杜甫の詩風を学ぼうとしても、もうできなくなっているのだ。

「学芸を修める者は、高い目標を目指すにあたって理解しやすい素材から始めるべきであり、途中の段階を無視していきなり難解なものに進んではならない。」という意見がある。これは一見正しいようだが実は（その言い方だけでは）間違っている。それは、高い目標に至るまでの方法に正しいものとそうでないものがあるからだ。たとえば泰山たいざんに登る時、ふもとの低山りょうほ梁父から登るならば、これこそ「理解しやすい素材から始める」ことである。しかし梁父と同じ低山であっても、泰山からはるかに離れたふざん嵬山・えき繹山を經由して日観の峰（泰山最高峰）を目指すならば、ますます疲れますますます遠くなるばかりだ。

では杜甫の詩風を学ぶ者はどのような（な学習態度）であればよいのだろうか。私の意見では、杜甫の五言律詩のうち身近でわかりやすい詩、たとえば「天河」「萤火」「初月」「鷹を画く」「端午に衣を賜る」といった詠物詩（自然の風物を題材とする詩）をくりかえし研究すれば、自然と理解が進み、先を見通せないなどと入り口で心配することがない。この方法によって学習を進めていけば、各段階を経て高い境地に達すること、ほぼ間違いなし！

※「殆ど期する有らん」の直訳は「十分に期待できる」なので「ほぼ間違いなし」と意識した。また末尾の「矣」は強意なので「！」とした。訳文の文末だけ読むとまるで受験参考書のようなだが、詩は科挙（官吏登用試験）の試験科目なので、清代に書かれたこの『野鴻詩的』は詩論であると同時に試験科目「詩」の学習参考書にもなっただろう。「野鴻」は筆者・黄子雲の号、「詩的」は「詩的」だから、書名はまるで『タナカの合格漢文』のようなものだね。

音読用書き下し文

世の学ぶ者、動もすれば杜詩を以て難解と為し、肯へて一たびも目を通さず。咿哦する所の者は、宋・明に非ざれば即ち晚唐な

り。詎ぞ知らん、薰染すること既に深く、後、杜に進まんと欲すと雖も也た得べけんや。

説く者謂ふ、学ぶ者は当に高きに登るに卑き自りすべくして、躡等（リョウトウ）すべからずと。此の言是に近くして非なるは、道に同じからざる有るが故なり。如し泰山に上るに梁父（リョウホ）由りして登らば、此れを之れ卑き自りすと謂ふ。若し梟・繹を歴て日觀の巔に造らんと冀はば之を跡ぬること愈勞しく之を去ること愈遠し。

然らば則ち杜を学ぶ者は当に何如なるべくんば而ち可なるか。

余曰はく、杜の五律の中浅近にして易明なる者、「天河」「萤火」

「初月」「鷹を画く」「端午に衣を賜る」の詠物等の篇のごときを反復尋繹せば、心目自ら明らかにして、門戸にして其の望見せざるを患はざるなり。此よりして進まば、階を歴て堂に升ること、

殆ど期有らん。

補注 「訓読は翻訳」という立場に立つと、次に示すように、問題

文の訓読からは翻訳に至らないので、音読用書き下し文では傍線部

Aを変更した。

■問題文の訓読 「詎ぞ知らんや：得べきかを。」↓「んや」は反語なので「〜ない」↓「知らない：できるかを」↓「できるかを知らない」↓「できなくなっているかを知らない」↓×↑問2正解⑤ 「できなくなっていることを知らない」

□修正後の訓読 「詎ぞ知らん。：得べけんや。」↓「知らない：できない」↓「知らない：できなくなっている」↓問2正解⑤ 「できなくなっていることを知らない」

修正後の訓読では「を」を省かざるを得ないが、問題文の訓読よりは翻訳に近い。

ステップ1

最初の2行を見る

冒頭が「世」なので、「今の世はまちがっている！」ルールにより、ただちに問1（1）の選択肢を見る。

問1（1）（熟）空

「世はまちがっている！」と非難するので、非難口調を探すと、①「いきなり〜」↓あぶないじゃないか、②「みだりに〜」↓けしからん、

④「とかく〜」↓しがちで困ったものだ、が正解候補。次に「動」で上下同じ意味の熟語を作ると「行動」。①は熟語ができない。②「みだりに」は「妄動もうどう」から作った選択肢だが、「妄みだりに動く」という訓

読からわかるように、「妄みだりに」は「動く」様子を表す語に過ぎず、「動く」と同じ意味ではない。「行行動」ではあるが「妄妄動」ではないのだ。

「行行動」のように上下同じ意味の熟語でなければ、「動」の翻訳とは言えない。したがって、②「みだりに」は「妄」の訳ではあっても、「動」の訳ではない。問われているのは「動」の意味なのだ。

④「とかく(しがち)」は「行動」あるいは「動向(動動向)」そのものなので、④「とかく」は「動」の意味と言える。だから②がヒツカケで④が正解。

なお、「動やもすれば」という訓読はあるが、読めても正解には至らないだろう。

筆者の主張をつかむために訳し続けると、次のとおり。

傍線(1)の下の「杜詩を以て難解と為す」は「Aを以てBと為す」AをBと考える」¹⁴³。あとは注1も使って訳すと、「近こころの…人は…杜詩を難解と考える」となり、これに対して筆者が「まちがっている」と主張している。すると筆者の主張は次のとおり。

世 杜詩は難解

→ 世の人はまちがっている！

筆者 杜詩は難解ではない

これで十分。これが大事。一問解いて筆者の主張の一部「杜詩は難解ではない」もつかんだので、三分経過。ステップ2・3に移らずそのまま読み進める。

問2 ニシテ漢 【反語はコレだけ語尾のンヤニ】により「詎ぞ知らんなん」や「の訳は「どうして知ろうか、いや知らない。」なので、「知らない」の②③⑤。「こへん」④の訳は「〜とはいっても」だから⑤「…でも、」が正解。

探求する人のための補説

「可得乎」は「反語の公式⑥」より本来「可ベケン得乎うや」と反語に読む。すると「得られようか。いや得られない」となる。また「得られない」は「不ザ得え」ニシテであり、訳は「できない」。これが正解⑤の「できなくなっている」と対応する。しかし、問題文が「得べきか」と読み、「得うべけんや」と読まないのは次の理由による。

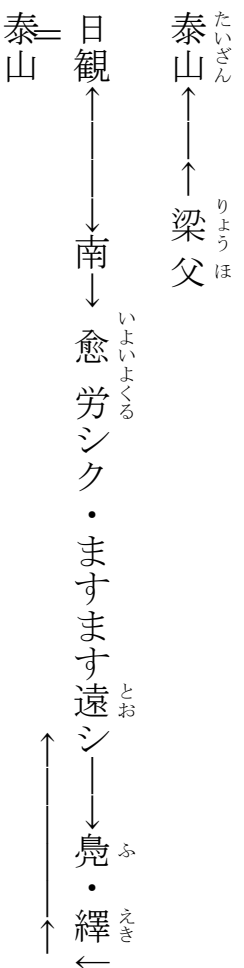
傍線Aはもともと「詎なんぞ知シランヤニ…可得乎やラ」と一文になっているものを二つに切り離れたものであり、もし「可得乎」を反語で読んで傍線Aを一文で読むと、「詎なんぞ…得うべけんやを知らんや」となる。読んでも落ち着きが悪い。それは日本語の「んや」が文末にしか来ないためだ。そこで「や」を同じ疑問・反語の係助詞「か」に

代え、「詎ぞ……得べきかを知らんや」とし、さらにそれを二分割したのが傍線Aなのだ。

中国語で読むと簡単に意味がわかるのだが、日本語で無理やり訓読すると実に複雑。でも、きみたちはニッポンの受験生だ。よくわからない所は避け、確かな知識だけを頼りに読み進めば必ず正解に至る。

問1 (2) (漢) 「是…正しいこと」(51)と考えて (2) の前後を訓読すれば「是に近くして (実は) 非 (あやまり) 」となり、⑤が正解。

問3 (注主張) (全) 対比 対比を問う問題。「説明・注で正解つかめ!」(176)により注の891011を図にすると次のとおり。



また「最初と最後で 筆者は主張 (6) により第一段落最初の「世の学ぶ者、杜詩を以て難解と為し…一たびも目を過さず。啾哦 (11)

朗唱) する所の者は、宋・明に非ざれば即ち晚唐なり」に着目する。「今の世はまちがっている!」(113)により、筆者は世の学者の態度

を否定している。すると、筆者の主張は世の学者の反対であり、杜甫（杜甫の詩）を称賛していることになる。あとは肯定「ヨシ！」と否定「ダメ！」でふりわけただけであり、その結果は次のとおり対比だ。

○杜詩はヨシ！ 泰山は注8で「名山」とあるからヨシ！

⇔対比

×宋・明・晩唐の詩は世の学者が朗唱する詩なのでダメ！^ふ晁・^{えき}繹は^{くろ}勞シク、^{とお}遠シなのでダメ！

したがってⅠ泰山、Ⅲ晁・繹となり、Ⅱを検討するまでもなく正解は③。なお、Ⅱについては現代語訳で確認してくれ。第三段落も理解してⅡを選ぶなどと思うと、実際の試験の制限時間には間に合わない。でも対比の構造はしっかり復習して理解しておかないと、せつかく苦勞して作られた過去問がキミの役にたたないので、是非^{ぜひ}120%の復習を！

問4^{漢疑} (i)「当」は「^ひ当に…べし」159だから、「べし」のな
い①②⑤が消え、「何如」は「いかん」だから、「いずれの如^い」
と読む③が消え、正解は④「^ま当に何如なるべくんば^{すなは}而^かち可なる
か」。

探求を好む人のための厳密な説明は次のとおり。

1 「而」について出題者は「(…すれ) すなわ 而ち…」と訓読しているの
で、「べし」は次のように変化する。

べし+ば、すなわち

← 仮定のいがよみ¹¹³

べくんば、すなわち

2 「いかん」は「べくんば」に続くため、次のように変化する。

いかん+べくんば

← 二つの言葉だけでは結合しないので

← 「ある」が加わるのが日本語

いかん+ある+べくんば

← いかn aる+べくんば

← いかなるべくんば

3 「何如」^{いかん}は文末に来るが¹¹²、④はその原則に反するのでは？

文④は次のように条件文と結果文の二つからなる。

条件文 当何如、まさにいかなるべくんば (どのようであれば)

結果文 而可。すなはち 可なるか？ (よいか?)

ここで「何如」は条件文の文末に来ているので原則に合う。

4 よって④は正解である。

(ii) 「何如」は「疑問の公式」から「どうか」という訳であり「状態」を問う語句だ。すると①「どのようであれば」が「状態」をたずねている語だから正解となる。

問5 選択肢と訳文を照らし合わせてキズを探すだけ。①の「蛍が人間の幸福になにも寄与しない」は訳4行目の「私の衣にとまり光を灯す」と矛盾するのでキズ。②の「蛍：に作者自身のあこがれ」は訳文最終行の「衰え弱ってどこに行くのだろうか」と矛盾。③の「無情な」は「薄情、冷淡、冷酷」という意味であり訳文にないのでキズ。④の「作者自身の消極的な態度」は訳文最終行の「衰え弱って」に近いというだけのヒツカケ。「衰弱」と「消極」は同じではない。⑤の「蛍の：さまようさま」は訳文の56行目「風に乗って：飛んでいって：雨にぬれて：向かっていって」と合致。また⑤の「蛍：に作者自身の旅人としての姿も投影」を正しいとすると、訳文最終行の「衰え弱って：行くの」が蛍であると同時に旅人である作者自身となり、特に矛盾はない。そこで⑤が正解。

なお、設問は「本文の主旨を踏まえたこの詩の解釈」を求めている。「本文の主旨」の一部は二つのステップにより「杜甫の詩は難解ではない」ことであり、さらに注8を参考にすれば「杜甫の詩は

名山のようにすばらしい」ことが本文の主旨だろう。このように考えても「本文の主旨」は問5の詩の解釈とまったく無関係だ。「本文の主旨を踏まえた…」は「筆者の主張の理解度を問いたい！」という出題者の熱い思いによる余計な語句であろう。

問6〔主張〕熟 オシリから 読むとわかるよ お結論¹⁰により

原文最後の傍線部Cは筆者の主張の結論。そこでこの傍線部Cの理解からスタートする。「階」は受験のウラわざ「1字の漢字は熟語で訳せ。熟語の訳で正解探せ！」¹¹により「階段」。「歴」は4行目の下で「歴^へて」。「升^{のぼ}」は出題者が読んでくれているから、「階段をへて堂にのぼる」のが筆者の主張。また、原文の最初で杜詩をヨシとし、さらに問3の作業で杜詩ヨシ・泰山ヨシとしているので、「堂」が「杜詩・泰山」に相当し、「階段をへて杜詩・泰山にのぼる」のが筆者の主張となる。こうしておいて、選択肢を確認する。

①「高度な作品を避けて始めたとしても」は「としても」がキズ。②の「人々から注目されている分野」は原文冒頭で「世の学者」が杜詩を難解として避けているのでキズ。③は「どれを…選択してもよく」がキズ。④の「高い目標を選択して、その低い所から進む」も、⑤の「基礎的でわかりやすい内容のものから始めれば

…すぐれた境地に達する」も「階段をへて…にのぼる」と合致するのでここから勝負だ。

④と⑤を比較すると、④は「山に登る場合…低いところから…進み始めてこそ…」、⑤は「山の頂上にたどりつくには…なるべく安全な道を選ぶ」。そして泰山^{杜詩}に登ることを述べた4・5行目は次のとおり。

「泰山」に登るのに「麓^{ふもと}にある低い山^{注9}」から登るなら、これは「卑^{ひく}きところ^よ自^より」登ると言える。もし「泰山から遠く離れた低い山^{注10}」から登るなら、登るのは困難だ。

⑤のキズは「なるべく」だ。低い山から登っても、泰山から遠ければ登頂できないので、「なるべく」ではダメだ。泰山の「麓にある低い山^{注9}」から登ってこそ^④成功する。

④の「低いところから」は「麓にある低い山^{注9}」の「麓にある」を欠くのでキズではないか？という疑問に、出題者は次のように答えるだろう。

④は「高い目標を選択して、その低いところから」としており、「その」という指示語は直前を受けるので「その低いところ」とは「高い目標の低いところ」である。「高い目標の低いところ」とは

「高い目標を目指す実行の容易な手段」であり、それを比喩的に言い換えたのが「泰山^{高山}の麓にある低い山^{注9}」（だから泰山に登りやすい）である。したがってキズはない。漢文の問題も国語力を測るための手段なのだから、指示語や比喩に注意してほしい。